荒尾市立府本小学校　校長便り　No.87

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年4月8日(水)

気持ちも新たに、令和8年度がスタートしました。年度末は強歩会、修了式、卒業式、退任式と立て続けに行事があり慌ただしく過ぎていきましたが、もう少し続きそうですね。今年度も張り切っていきましょう。

昨年度から執筆を開始したこの校長便りが接点となって、多くの保護者の皆様からお声掛けを頂きました。同じ保護者、地域住民として、私自身の考える理想や目標を書くことで、同じように読者の皆様にも教育について考えて頂くツールとなったようです。しかし、特に反響が多かったコーナーは「自分を語る」でした。少しでも身近に感じて頂けたのなら有難いことです。令和8年度も全力で頑張ります。よろしくお願いします。

昨年度も紹介した詩を、初心を忘れないという意味で再掲載させて頂きます。

「おかげさまで」

夏が来ると冬がいいという
冬になると夏がいいという
太ると痩せたいという
痩せると太りたいという
忙しいと閑になりたいという
閑になると忙しい方がいいという
自分に都合のいい人は善い人だと誉め
自分に都合が悪くなると悪い人だと貶す
借りた傘も雨があがれば邪魔になる
金をもてば古びた女房が邪魔になる
世帯を持てば親さえも邪魔になる
衣食住は昔に比べりゃ天国だが
上を見て不平不満に明け暮れ
隣を見ては愚痴ばかり
どうして自分を見つめないか
静かに考えてみるがいい
いったい自分とは何なのか
親のお陰　先生のお陰
世間様のお陰の塊が自分ではないのか
つまらぬ　自我妄執を捨てて
得手勝手を慎んだら
世の中きっと明るくなるだろう
おれがおれがを捨てて
おかげさまでおかげさまでと暮らしたい

不平不満ばかりでは成長は望めません。人生において幾多の災いが降りかかるのは当然ですが、明るく元気に、「人事を尽くして天命を待つ」で頑張りましょう。

独り言

春休みはバタバタと過ぎた。卒業式後は少し静かにゆっくりと過ごそうと思うのだが中々そうはいかない。

春は新生活がスタートする季節、この時期に毎年我が家に教え子たちが集まりBBQを行っている。BBQと言っても住宅地で火を燃やすのは危険なので、車庫の中にホットプレートを持ち込み、みんな好き勝手に肉を焼いて食べるスタイルだ。教え子達の年の差は20歳越え！教え子の縦割り活動の様相だ。違う現場で活躍する者達が、楽しそうに話している場面に改めて教師冥利を感じる。

こんな気持ちを感じられる教職は私にとって天職なのかもしれない。

シリーズ「自分を語る」#87

前回は、タイの研修員のロンさんでしたね。今日はそのお隣の国、カンボジア。からの研修員受け入れです。カンボジアの研修員は「学校教育」研修の希望でした。さぁ、面接です。といっても言葉は当然通じません。今回も先方の研修員派遣窓口の日本人と面接でした。窓口は「JHP学校を作る会プノンペン事務所」です。学校を作る会と聞いて、おやっ？　と思う方もいるかもしれませんね。少しカンボジアという国についてお話しましょう。

カンボジアには悲惨な歴史の側面があり、それに関係して学校を作らなければならない事情がありました。アメリカやフランス、ベトナムなどの他国の影響を受け、政治的考えが関わっているので、簡単には説明できませんが、国内で大量虐殺が起こった「ポル・ポト政権時」のことだけお話します。

1970年代、カンボジア内戦の結果、ポル・ポトが政権を握りました。そして、すぐに都市部にいた人達を強制的に農村部に追いやりました。農業に従事させるためです。ポル・ポト率いるクメール・ルージュという政党は、「原始共産主義（階級や格差の全くない原始時代の状態に戻そうとする考え）」を掲げました。「知識は人々の間に格差をもたらす」という考えから、「国を指導する我々以外の知識人は自国には不要」と考えにつながりました。すべての知識人を集めるために、農村部に追いやった人達や、留学や仕事で国外へ行っていた人たちに向けて「国の再興のために、医者や教師、学生だった人は名乗り出してほしい」と告げます。名乗り出た人たちは、政権によって殺されました。これが次第にエスカレートしていき、「本を読んでいるから」「海外に行ったことがあるから」というようなめちゃくちゃな理由で知識人だとされ、殺されるようになりました。そのようにして、カンボジア国内から知識人（と思われた人）は次々と殺されていきました。大人と違い、何も知らない子ども達は「悪質な思想に染まっていない」、「原始共産主義を良く理解する」という理由からポル・ポトは、積極的に社会的な役割（兵士、看守、医者など）に就かせました。その結果、子どもが大人を監視し、殺すという悲惨で悲しい状況を生みました。後に、カンボジアから亡命した人々で結成された軍隊とベトナム軍の軍隊でポル・ポト政権を攻め、1979年に首都プノンペンを陥落させました。1975年から1979年の4年間の間に、虐殺の他、干ばつ、飢餓、疫病などで、200万人～300万人のカンボジア国民が亡くなったとされています。

このような歴史背景をもつカンボジアは、教育施設が非常に少なかったのです。ポル・ポト政権後、「国の再興のために必要なことは教育だ」という考え方のもと学校作りを進めていくのですが、中々進まない現実もありました。そこで、他国の援助を受けることになったのです。熊本では芦北町国際協会がそのような取組をしており、私たち国際課も取次窓口となってカンボジアの学校づくりに協力していくこととなったのです。特徴的なのは、カンボジアが教育の中心に据えたのが「音楽」ということです。情操教育を国の再興に繋げたのです。

話を元に戻しまして…。カンボジアからの研修員の名は「キン・ラーさん」です。キンさんは、カンボジアですでに教鞭をとる現役の先生です。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）